

子どもを見守る、強くて美しいカバンを。

ランドセルだけで70年。本革と手作りにこだわり続ける生田（いくた）がお届けする、「ランドセル」にまつわるお便りです。

いくた
IKUTAYORI

よ
り

親子ランドセル 職人体験会を 開催しました！



1.OCT.2023
ISSUE

001

～仕立てよう、自分だけのランドセル～
イベント当日の様子をお伝えします。

7月15日（土）・16日（日）・17日（月）の3日間、大阪生野本店の工房で、毎年恒例の『親子ランドセル職人体験会』を開催しました。今年は、48組の枠に対して288組の皆さんにご応募をいただきました！

当日は、生田の作り手も参加して、6年間をともにするランドセルのパーツをご家族みんなで作ってもらいました。まずは裁断から。大きな裁断機を使ってパーツを切り出していきます。初めての1枚革の大きさにみんなびっくり。裁断のあとは、革の厚みを調整し、専用の糊を縫ってパーツが完成。初めての体験にみんなのドキドキ・ワクワクがこちらまで伝わってきます。

次はいよいよミシン掛け。お父さん、お母さんの出番です。「がんばって！」目の前の大きなミシンにみんな興味津々。縫い目が多少ガタついてのご愛嬌、それも家族みんなの楽しい思い出です。

最後は、金具を取付けてパーツが完成。出来上がったパーツはお預かりして、ご注文いただいたランドセルに作り手たちが組付けて完成させます。

このイベントを通して、身近なランドセルを大切に作る気持ちが生まれていたらうれしいです。そして、「自分の手で作ること」の面白さ、「革という素材」の奥深さが、一人でも多くの心に残っていますように。

VOICE

参加者のこえ

『ランドセルを作ってみた感想は？』



楽しかった！自分で作ったパーツを持って誇らしげにしていたのがとても印象に残りました。（Mさん）



まさか自分でランドセルを作ることができると思っていませんでした。素晴らしい体験でした。（Oさん）



思っていた以上に本格的な体験でした。ここで大切な息子のランドセルを購入して良かったです。（Iさん）

ランドセルができるまで ～ 裁断編～

PROCESS

01



『革の検品』

本革にこだわるから、1枚1枚丁寧に。

革を使うということは、食用としていただいた生命を余すことなく使うための大切な行動です。そのために、生田では本革にこだわってランドセルを製造しています。革には1枚として同じものはありません。入荷した革がどんなものか、1枚1枚検品していきます。

PROCESS

02



『革の裁断』

ここで、ランドセルのすべてが決まる。

ランドセルの工程の中では、ミシンや組立の作業が華やかに見えるかもしれませんが、実は1番難しい作業は革の裁断です。どのパーツをどこで裁断するのか、繊維方向はどうか、キズは入っていないか。ランドセルのすべてが、ここで決まります。

PROCESS

03



『内装・芯材の裁断』

見えないパーツが支える、強さと美しさ。

ランドセルの強度には、革だけではなく内装や芯材も重要です。だからこそ、表からは見えない内装や芯材まで、生田では手を抜くことはありません。そのパーツの総数、約70点。丈夫で美しいランドセルを作るために、真面目に根気強く裁断していきます。

ランドセルのひと

生田のランドセル作りを支える 裁断のプロフェッショナル

Q.どんな想いでランドセルを作っていますか？

A.卒業するとき、家族みんなで「生田のランドセルを選んでよかった」と言ってもらえるように、と想って裁断しています。

Q.生田のおすすめポイントを教えてください。

A.工房見学や体験イベントなどがあり、作り手から直接ランドセルの話聞けるなど、お客さまとの距離が近いことです。工房営業日にはいつでも自由に見学できますよ！

野口 善史
YOSHIFUMI
NOGUCHI



裁断歴30年。生田の革は必ずこの人の手を通ります。お話も大好きなので、生田を引っ張る頼れる兄貴に、ぜひ声をかけてみてください。